

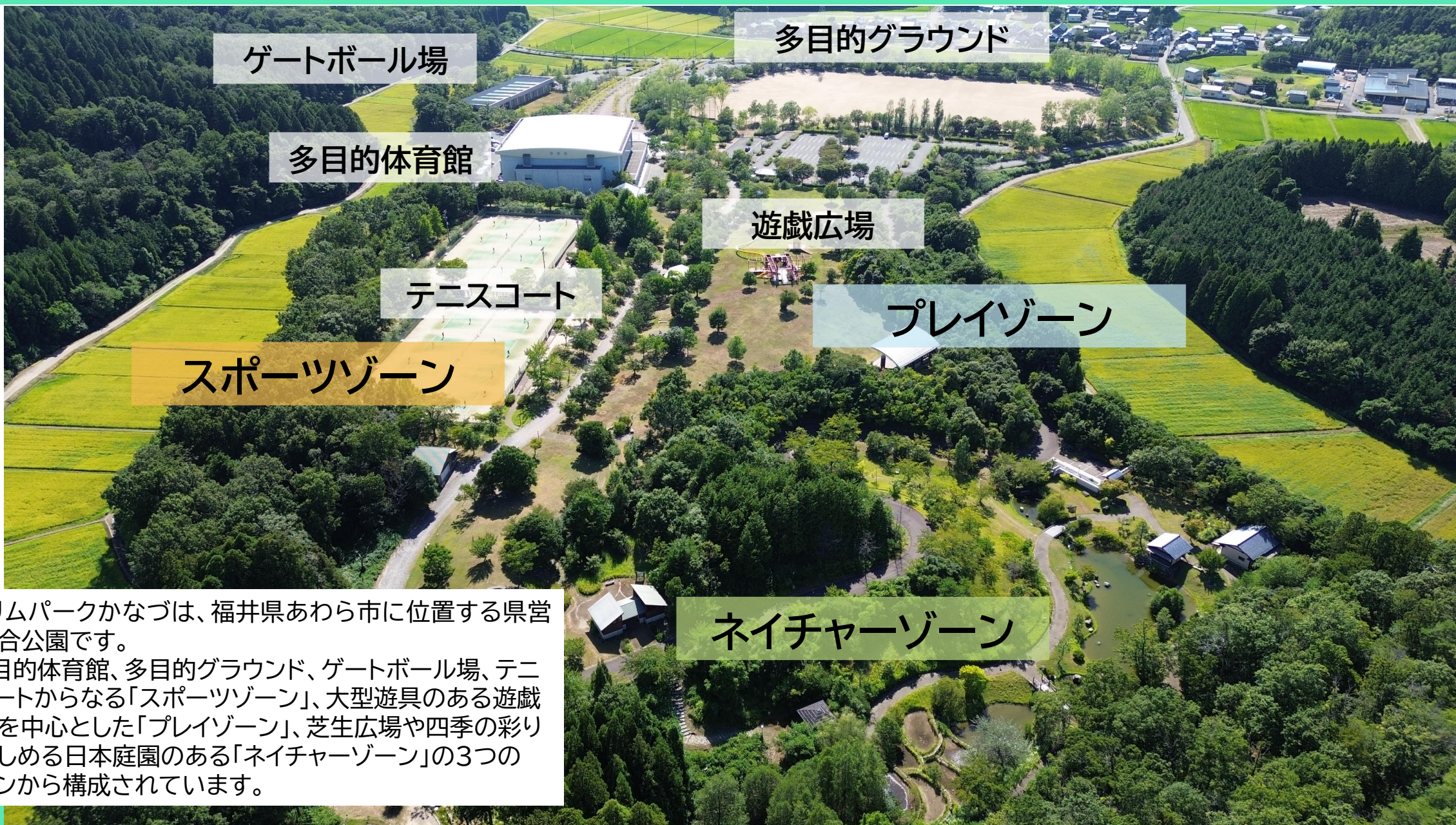
対象地概要資料_トリムパークかなづ 『ネイチャーゾーン』の現況について



【マーケットサウンディング調査について】

トリムパークかなづ『ネイチャーゾーン』の現状をお示しし、民間事業者のみなさまからネイチャーゾーンで実現可能な施設や機能のご提案やご意見をいただくことで、ネイチャーゾーンの再整備における官民連携手法の導入の可能性を検討することを目的としてマーケットサウンディング調査を実施します。

トリムパークかなづについて



トリムパークかなづは、福井県あわら市に位置する県営の総合公園です。

多目的体育館、多目的グラウンド、ゲートボール場、テニスコートからなる「スポーツゾーン」、大型遊具のある遊戯広場を中心とした「プレイゾーン」、芝生広場や四季の彩りが楽しめる日本庭園のある「ネイチャーゾーン」の3つのゾーンから構成されています。

公園の概要



【公園の変遷】

福井・坂井地域のスポーツ、自然散策・観賞など、地域の多様なレクリエーションニーズに対応した総合公園で平成15年4月に全面供用開始した。

平成8年度

多目的体育館、多目的グラウンド、屋内ゲートボール場供用開始

平成11年度

テニスコート、野外ステージ、芝生広場供用開始

平成14年度

弓道場、和風園等供用開始

【施設内容】

公園種別:総合公園

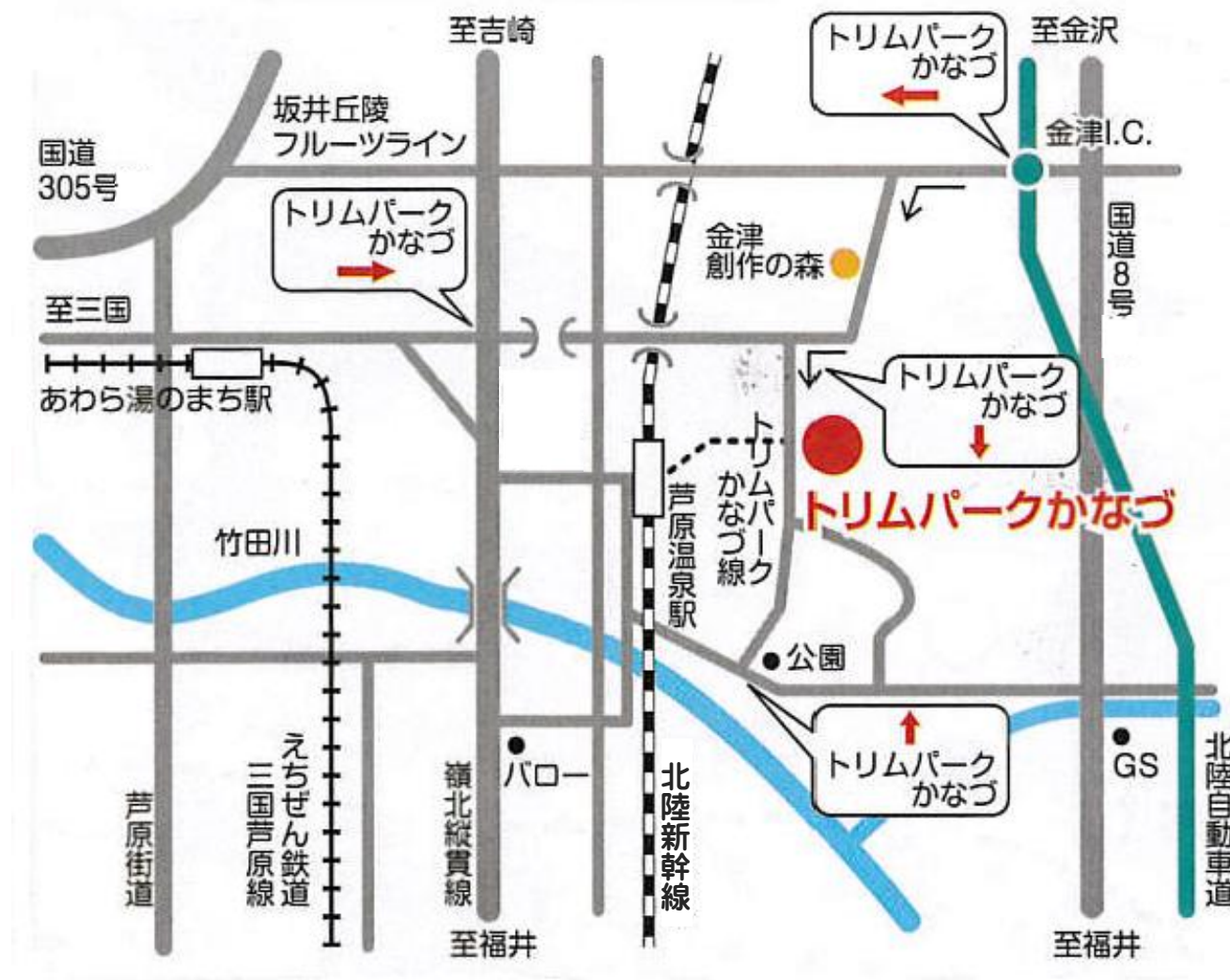
住所:福井県あわら市山室

面積:約20ヘクタール(ネイチャーゾーン:5ha)

主な施設

多目的体育館、多目的グラウンド、テニスコート(8面)、弓道場、野外ステージ
ゲートボール場(6面 うち屋根付き3面)、芝生広場など

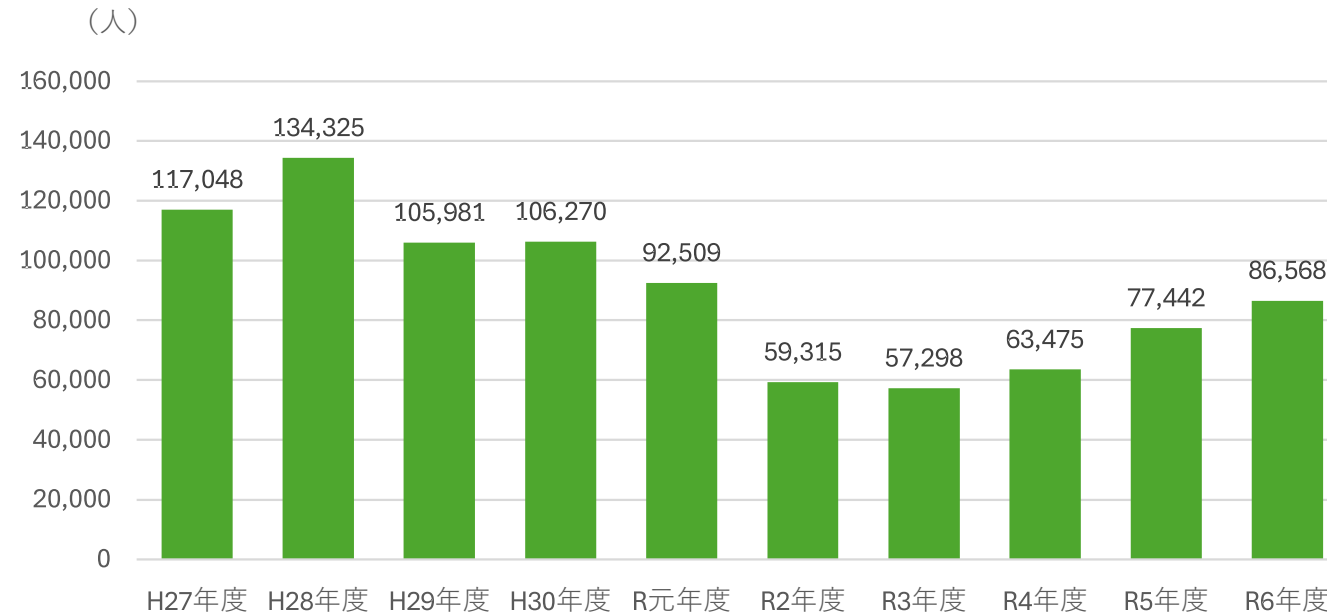
公園の概要(アクセス)



アクセス面では北陸新幹線芦原温泉駅から徒歩15分・車で5分と良好な環境に位置しています。
周辺にはトリムパークかなづ線(福井県道258号線)が接続しており、国道8号からのアクセスも良好です。

公園の概要(来園者数の推移)

【来園者数の推移】



平成27年度から令和元年度にかけては、来園者数は概ね10万人前後で推移しています。令和2年度から令和3年度にかけては新型コロナウイルス感染症の影響により、5万人台まで減少したものの、近年は回復傾向にあり、令和6年度には約9万人の来園者数となっています。

ネイチャーゾーンについて

和風園



静かな雰囲気の中で四季折々の自然美を楽しめる庭園。東屋が設けられており、休憩や景観鑑賞できます。

芝生広場



芝生が広がるエリアで、ボール遊びやピクニックを楽しめます。

ネイチャーゾーン



芝生広場



ビオトープ園



水辺の植物や昆虫が観察できる自然豊かなエリアです。

森の学校



森の中に整備された散策路があり、自然体験や探検気分を味わえる学びの場です。

ネイチャーゾーン内の施設の老朽化等の状況について

経年により劣化が見られる園路や木橋



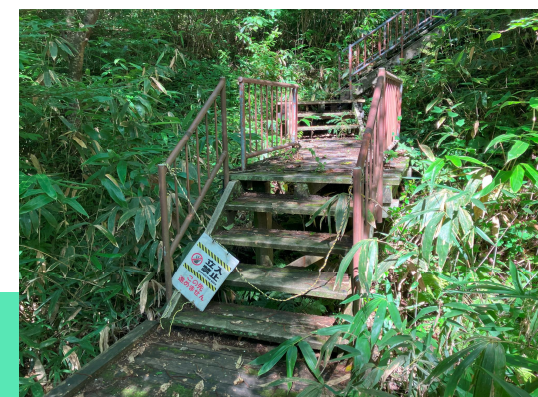
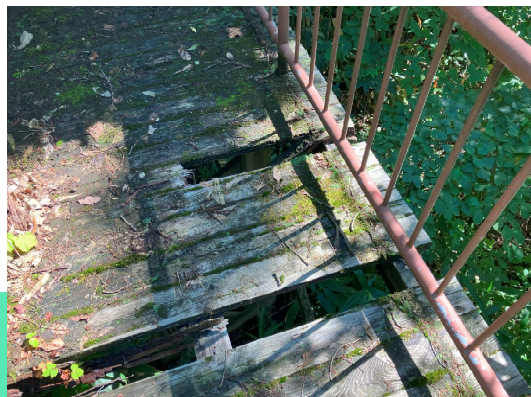
枝の落下や草木の繁茂により通行が妨げられている園路



老朽化が進行している園内施設



安全管理上、一部エリアで立ち入りを制限



ネイチャーゾーンの課題について

【集客力の向上】

園内の動線や案内が分かりづらく、ネイチャーゾーンへの誘導が弱い傾向があります。

また、自然体験の魅力が十分に発信されておらず、広報やイベント企画の工夫が求められています。

【他ゾーンとの連携】

ネイチャーゾーンは園内の奥に位置し、他ゾーンとの動線や案内が不十分で回遊性が低くなっています。体験内容の性質が異なるため、ゾーン間の連携イベントやプログラムが少なく一体感に欠けます。

公園全体としての魅力を高めるためには、ゾーン横断型の企画や情報発信の強化が必要です。



新たな魅力づくりに向けて

①施設老朽化への対応

ネイチャーゾーンは、遊歩道やビオトープなど自然と触れ合えるエリアとして整備されていますが、園路や階段に老朽化に伴う腐食や劣化による事故リスクが高まっており、抜本的な改修が必要です。

②時代に合った新たな魅力づくり

自然体験が中心である一方、多様な年齢層に対応した仕掛けが不足しています。また、季節や天候に左右されやすく、快適に過ごせる環境整備が十分ではありません。ネイチャーゾーンの資源を活用し、時代に合った新たな魅力づくりが求められています。